

RITS

立命館アジア太平洋大学

Ritsumeikan Asia Pacific University

PROGRESS REPORT



[季刊] 立命館アジア太平洋大学プロGRESS・レポート

1997年 夏 第2号

SUMMER 1997/vol. 2

Ritsumeikan Asia Pacific University
PROGRESS REPORT

新大学に期待する

アジア太平洋地域は、二十一世紀の世界の発展をリードする活力と魅力にあふれています。

私は経団連ミッションで、ASEAN諸国、中国、韓国、インドなどを訪れ、各国の首脳や民間の指導者と意見交換する多くの機会がありました。そのたびにこの地域のダイナミズムを肌で感じました。

なかでも、特に強く感じていることは、この地域のさらなる発展のためには「人材の育成」が何よりも大切だということです。すなわち、アジア太平洋地域は、多様な民族・文化・伝統があり、人的資源も豊富で、潜在能力は大きなものがありますが、そうした能力を引き出し顕在化させ、さらに伸ばすことが重要課題であり、そのためのお手伝いをするのが、二十一世紀における日本の果たすべき役割のひとつであると思います。そうすることが日本自身のためにもよいことでもあります。

「立命館アジア太平洋大学」で共に学んだ世界の若者が、それぞれの国・地域の発展を担い、さらには世界の繁栄のために活躍されることを期待しています。

経済団体連合会会長
トヨタ自動車会長

豊田章一郎



海外元首アドバイザー・コミッテイ 名誉委員からのメッセージ

立命館アジア太平洋大学アドバイザー・コミッテイ名誉委員にご就任いただいている
海外の国家元首の方からメッセージを頂戴しておりますので、ここに紹介いたします。

■フィリピン共和国大統領

フィデル・V・ラモス



立命館アジア太平洋大学の開設にあたっては、産・学・官各界のご協力を得ながら、特にアジアの各国との経済・文化的なつながりを深める点において、称賛に値するものであると考えております。私は、アドバイザー・コミッテイ名誉委員を積極的に務めて参りたいと思っております。我が国に対する強い関心を払っていただき、感謝いたします。

■マレーシア国首相

Dr. マハティール・ビン・モハマッド



来る二十一世紀を見据え、大分県に立命館アジア太平洋大学を設立しようとするお考えは、称賛に値するものであると考えております。私自身も、このような大学の設立は誠に時宜を得たものと思っております。アジアの関係各国の産・学・官各界の協力の下、この大学がアジアの有為な人材を育成する上で、重要な役割を担ってくれることを期待するものです。このような意味から、私は、アドバイザリー・コミッティ名誉委員への就任要請をいただいたことを名誉に思っています。大学設立のビジョンや目的が叶うよう、最善を尽くす所存であります。

産・学・官の卓越した代表者に加えて、インドネシアやフィリピンの元首をも含む著名な方々を名誉委員に迎えることによつて、立命館アジア太平洋大学の将来は安泰であると確信いたしております。

■ペルー共和国大統領

アルベルト・フジモリ F.



立命館アジア太平洋大学の栄えあるアドバイザリー・コミッティ名誉委員への就任依頼に つきまして、心より感謝いたします。

この名誉ある称号につきましては喜んで受諾申し上げます。

私は学究の徒の一人として、高等教育と研究活動を通じ、アジア太平洋地域を他の世界諸地域との調和の中で持続的に成長させていくという立命館の構想に、心からの賛意を表すものです。

新大学の開設は、大分県と我が国の双方の間に友情を生ずる好機となると確信しており、ここに深甚なる敬意を表します。

立命館アジア太平洋大学 アドバイザー・コミッティ幹事会を開催



樋口廣太郎 アサヒビール株式会社代表取締役会長

経済界でご活躍のアドバイザー・コミッティ委員の方々からは、実務担当者として「幹事」をご推薦いただいております。去る五月二十八日東京（経団連会館）、六月十日大阪（中之島センタービル）にて、第一回幹事会を開催いたしました。東京会場ではアドバイザー・コミッティ代表世話人の樋口廣太郎アサヒビール株式会社代表取締役会長から、大阪会場では世話人の河原四郎大同生命保険相互会社取締役会長からご挨拶をいただきました。主催者側から大南正瑛立命館総長、平松守彦大分県知事、井上信幸別府市長が挨拶。続いて立命館アジア太平洋大学学長予定者の坂本和一立命館副総長から、「立命館アジア太平洋大学の意義、開設に向けての説明とお願い」として、新大学への留學生確保に関わるお願いや、委員の方々の著書などを所蔵する「アドバイザー・コミッティライブラリー」の計画等について報告がありました。



河原四郎 大同生命保険相互会社取締役会長

りました。

幹事会に引き続き、懇親パーティを開き、幹事の方々と学園関係者との間でなごやかな歓談が行われました。

東京会場に出席の幹事は六〇名。大阪会場は四四名で、総勢は一〇四名にのぼりました。このように多数の方々のお出向をいただいたのは、アドバイザー・コミッティ委員ならびに幹事の皆様の新大学に対する期待の大きさとして受けとめ、学園関係者および大分県、別府市一同は、感激するとともに今後の決意も新たにしております。

アドバイザー・コミッティ ライブラリー

立命館アジア太平洋大学開学時にご協力いただきました委員の先生に関わる資料を永久保存し、先達から学ぶ貴重な教材として学生に公開するなど教育活動に利用させていただくことを計画しております。新大学は真の国際化に貢献するリーダーたる人材の育成を最大の目的としていますが、アドバイザー・コミッティライブラリーはその達成に寄与する大変貴重な資料となるものです。

【資料例】

アドバイザー・コミッティ委員の方々の――

- ご経歴
- 著書
- 講演記録
(音声、画像、テープ、ディスク含む)
- 鼎談・対談集
- 社史 ほか



平松守彦 大分県知事



坂本和一 立命館副総長
(立命館アジア太平洋大学学長予定者)

今後、幹事会は毎年一〜二回の割合で開催して行く予定です。



幹事会会場



川本八郎 立命館理事長



井上信幸 別府市長



大南正瑛 立命館総長

国際学術シンポジウム 「アジア太平洋のエポック」を開催

長田豊臣 立命館大学副学長



東洋文化研究所長、野中郁次郎・北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科長、高橋哲

去る六月二十一日、二十二日の両日、大分県別府市のビーコンプラザにおいて、立命館アジア太平洋研究センターが主催し、大分県、別府市、立命館アジア太平洋大学設置期成同盟会の後援をいただいた国際学術シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、新大学の創設に向けて、新しい教育研究分野である「アジア太平洋学」の構築や、二十一世紀の人材育成と新大学の必要性について、国内外の方に様々な角度からご提言いただくものとして開催しました。シンポジウムには、大分県ならびに別府市の皆様方のもとより、教育界、経済界、マスコミなど幅広い分野から、二日間、約六〇〇名のご参加をいただきました。

一日目は、平松守彦大分県知事、井上信幸別府市長、大南正球立命館総長の挨拶の後、坂本和一・立命館アジア太平洋大学長予定者から「アジア太平洋学」の可能性」と題した基調講演が行われました。

引き続き、「アジア太平洋のエポック」をテーマに全体シンポジウムを行いました。長田豊臣・立命館大学副学長がコーディネーターをつとめ、濱下武志・東京大学

東洋文化研究所長、野中郁次郎・北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科長、高橋哲哉・東京大学助教、田宮謙次・ソニー株式会社専務取締役、坂本和一氏の五名のパネリストが、様々な角度から意見を述べられました。特に、二十一世紀のアジア太平洋地域の持続的発展と共生を担う人材育成の重要性と、これに貢献する新しい教育研究分野としての「アジア太平洋学」構築の必要性が強調されました。また、これを担う新大学の創設に対して、強い期待が寄せられました。

二日目は、四つのフォーラムに分かれて議論が行われました。

午前は第一フォーラム「海域、交通、接近——新しいエリアスタディーズをめざして」と第二フォーラム「アジア太平洋地域における企業マネジメント」を開催しました。

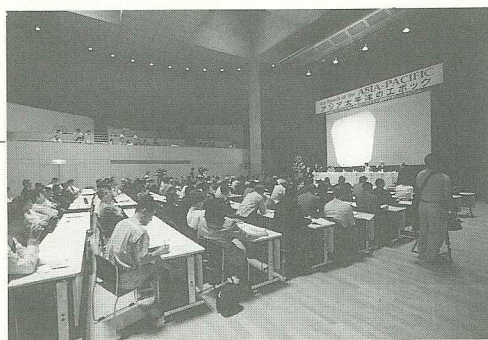
第一フォーラムは、濱下武志氏にコーディネーターをお願いし、布施勉・横浜市立大学教授、韓国の映画監督である朴鐘元氏、真栄平房昭・神戸女学院大学教授の三名のパネリストの間で、アジア太平洋地域の諸現実に、「海域」など新しい観点からアプローチする社会科学の方法論が議論されました。

第二フォーラムでは、安藤哲生・立命館大学経営学部長がコーディネーターをつとめ、野中郁次郎氏、秋田忠志・松下電器産業株式会社客員、井上隆一郎・桜美林大学教授、アンディイラウ・エイフフォーソールディング社（香港）社長の四名のパネリストの間で、企業マネジメントにおける「普遍性」と社会的・文化的特徴を背景と

した「地域性」に関わって、アジア太平洋地域における企業マネジメントの実態と今後のあるべき姿について意見が交わされました。

午後には第三フォーラム「記憶、記録、責任——新たな関係の創出をめざして」と、第四フォーラム「アジア太平洋地域における人材マネジメント」を開催しました。第三フォーラムは、高橋哲哉氏にコーディネーターをお願いして、ノーマーフィールド・シカゴ大学教授、作家の徐京植氏、川村湊・法政大学教授、リサリヨネヤマ・カリフォルニア大学サンディエゴ校助教の四名のパネリストの間で、記憶や記録をふまえた、アジア太平洋地域における新たな関係の創出に迫る議論が行われました。

また第四フォーラムでは、岡本昌雄・中京学院大学教授にコーディネーターをお願いし、田宮謙次氏、津田和明・サントリ株式会社取締役副社長、佐味祐介・大分県商工労働観光部次長、稲葉エツ・アジア経営大学院准教授の四名のパネリストの間で、アジア太平洋地域で活動する企業の人材マネジメントと人材開発や、大学がどのような人材を育成すべきかなどについて意見が交わされ、二日間にわたるシンポジウムは盛会のうちに終了しました。



キャンパス建設準備、進捗状況

立命館アジア太平洋大学のキャンパス建設について、
学校法人立命館の慈道裕治常務理事、伊藤昭常務理事に聞きました。

Q

立命館アジア太平洋大学は
どのようなキャンパスになるのでしょうか？

A

キャンパス予定地はアジア太平洋地域へとつながる別府湾を見おろす立地にあり、
眺望に加え、自然環境にも大変恵まれたところとなります。
この立地条件を生かし、まわりの自然と溶け合いながら教学目標にもとづいた国際性、
先進性のある魅力的なキャンパスをつくりたいと考えています。

Q

キャンパス計画のコンセプトは
どのようなものでしょうか？

A

キャンパス計画は次の五点を基本視点として検討を重ねています。
第一は、国際性豊かで、大分県・別府市が世界に誇れる国際水準のキャンパス。
第二に、自然と環境に調和し、アメニティにあふれる市民に開かれたキャンパス。
第三は、世界的な研究拠点としてマルチメディア機能が整備されたキャンパス。
第四に、県民や市民に親しまれる地元密着型のキャンパス。
そして第五には、防災対策や安全対策を重視したキャンパスです。



学校法人立命館常務理事 政策科学部教授
慈道 裕治
(立命館アジア太平洋大学副学長予定者)

Q

特徴的な施設としては
どのようなものがあるのですか？

A

配置を予定している施設は、大学の教育研究と運営の上で必要となる機能を十二分に発揮できることはもちろんのこと、特徴的な施設としては次のようなものがあります。まず、国際大学にふさわしい国際交流機能とグレードを備えた「国際交流センター」を設置します。また、留学生と日本人学生が混住して日常的なコミュニケーションをはかることのできる「学生居住施設（国際寮）」が必要と考え、準備しています。

現代の情報化の高い要請から、マルチメディア対応の情報機器・言語教育機器、図書・雑誌・情報メディアなどを収容する「総合情報センター」も設けます。

学生生活の充実の観点からは、言語の違いを越えて交流がはかれるよう各種のグラウンド、スポーツ関連施設を充実します。

さらに、地元県民・市民をはじめ、外来者に開かれた緑豊かで憩えることのできるアメニティ空間を配置していくことも重要な課題と考えています。

Q

今後の予定について
お聞かせください。

A

各種の開発発許認可の手続きについては、既に環境影響評価（環境アセスメント）を終了しております。今後のキャンパス建設に向けたスケジュールとしては、年内に造成工事着工の予定で準備を進めています。

また、市街地とキャンパスを結ぶアクセス道路についても新設工事とともに既存の道路の拡幅工事が開始されています。

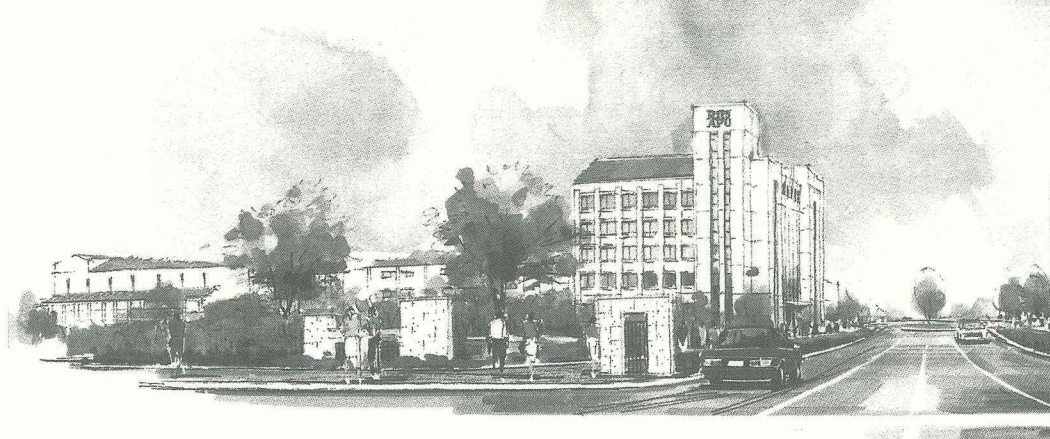
ご期待ください。



学校法人立命館常務理事

伊藤 昭

(立命館アジア太平洋大学副学長予定者)



大使館訪問活動進む

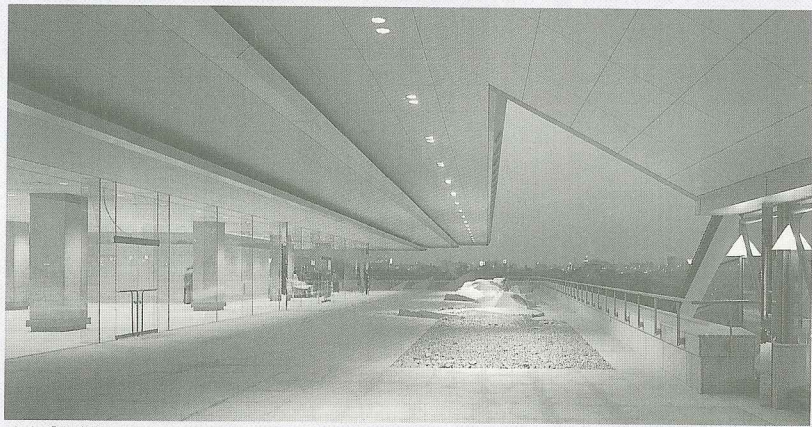
新大学への留学生確保をめざし、大使館・領事館への訪問・依頼活動を広げています。この間、中華人民共和国をはじめ左記の駐日大使館・領事館等を訪問し、立命館アジア太平洋大学の概要・意義を説明の上、留学生確保に関する協議を行ってきました。

各国の国情、教育事情等は様々ですが、共通して二十一世紀においてはますます人材育成が重要となり、アジア太平洋地域における新大学の果たすべき役割は非常に大きく、「優秀な留学生の派遣について、今後積極的に協力をやりたい」とのご賛同をいただきました。

一方、多くの学生にとって日本への留学は経済的に非常に厳しいため、日本政府や日本企業に対して奨学金等の就学援助を期待しているとの強い希望が寄せられています。

今後は、留学生確保に向けたより具体的な協議を進めると同時に、さらに多くの大使館・領事館との絆を広げて行く予定です。

【訪問大使館・領事館】中華人民共和国、大韓民国、台湾、モンゴル国、マレーシア、フィリピン共和国、シンガポール共和国、ベトナム社会主義共和国、パキスタン・イスラム共和国、トルコ共和国、アラブ首長国連邦、オーストラリア連邦、ニュージーランド、フィジー共和国、カナダ、アメリカ合衆国、メキシコ合衆国、アルゼンチン共和国、ポーランド共和国、南アフリカ共和国、モリタニア・イスラム共和国



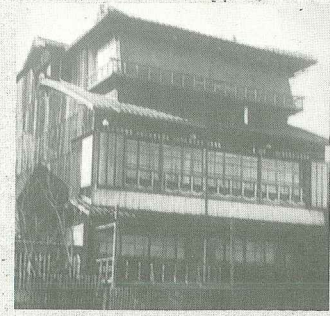
カナダ大使館



立命館 紹介 歴史

【第2回】

立命館の創始は
一八六九年（明治二年）。青年公卿西園寺公望が京都御所の邸内に家塾として開始したもので、この流れを引き継いで、現在の立命館大学の前身、京都法政学校は、一九〇〇年（明治三十三年）五月十九日に京都に初めての法律学校として開学しました。その創設者は、西園寺公望が第二次伊藤博文内閣で文部大臣となった時に文相秘書官をつとめた中川小十郎です。



清輝楼（1900年京都法政学校開学時の仮校舎）

京都法政学校は、一九〇三年（明治三十六年）に専門学校令によって私立京都法政専門学校と名称を改め、翌年にさらに私立京都法政大学になりました。昼間の大学部と予科、夜間の専門学部を擁しておりました。一九一三年（大正二年）、学園として正式に「立命館」を名のるようになりました。

この間に西園寺公望は二回にわたり内閣を組織し、中川は首相秘書官、樺太庁第一部長（副長官にあたる）となり、一九一二年には引き続き台湾銀行副頭取（一九二〇年からは頭取）に就任しました。

中川が長期の京都不在の間、教学は教頭等の役職についていた京大法学の教授たちが責任をおり、経営については西園寺の実弟末弘威磨（たけまる）が幹

韓国・中国はじめ 海外へ学生募集活動を展開

「世界五〇カ国の学生が集う国際大学」の実現に向けた取組みの一環として、インドネシア、フィリピン、韓国等の訪問に続いて、今年四月再び韓国を、五月中国の上海・北京を訪問しました。韓国では、高校十一校、政府教育部等を訪問。中国では、日系企業説明会開催および企業、国家教育委員会、大学等訪問を実施し、新大学の概要を説明して学生の推薦や紹介について協力要請を行いました。

訪問したところでは、異口同音に、「二十一世紀のアジア太平洋の発展に是非とも必要な大学だ。今後、協力できることを考えたい」と高い評価と期待を表明され、訪問者も新大学創設の意義と任の重さを改めて痛感しました。今年七月、九月には、さらに十二カ国を訪問する予定です。



対外経済貿易大学（北京）



鄭夢準（チョン・モンジュン）氏 講演会

四月十八日
午後四時三〇分より、アカデミア立命

21中野記念ホールにおいて、



アジア太平洋研究センター特別講演会「二十一世紀における日本と韓国の役割」が、韓国・蔚山大学理事長、現代グループ・現代重工業顧問で、世界サッカー連盟（FIFA）副会長でも知られる鄭夢準氏を講師に迎えて開催されました。

大学人でもあり、経済人でもある氏の話題は、韓日の歴史から政治・安全保障、経済関係へと多岐に渡り、「隣国に信頼されるために日本が北東アジアの安定と平和のために建設的な役割を果たすことを期待する」と述べられました。また、二〇〇二年のサッカー・ワールドカップの韓日共催についてもふれられ、両国の相互理解と未来志向的な関係を維持して行くための良い機会になるだろうとして、話を締めくくられました。

会場には韓国からの留学生や学生、大学院生、教職員など約二〇〇名が参加し、講演後の質疑も活発に行われました。

B O O K R E V I E W

ブック・レビュー

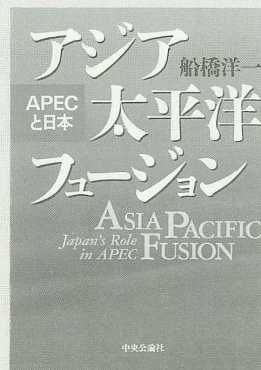
『アジア太平洋フュージョン』

「アジア太平洋」、この魅力的な舞台をどう見るかは、世界のあらゆる人の関心事となっています。アジア太平洋こそ世界で最も人を興奮させるダイナミックな地域です。アジア太平洋をAPECの視点で鋭く洞察する中でAPECが日本にとって再生の機会を与える跳躍台であると著者は強調しています。日本が西と東、北と南の「フュージョン（融合）」を目指すべきことの歴史的使命を緻密なインタビューに基づいて解明した好書です。

（1996年度アジア太平洋賞受賞）

『アジア太平洋フュージョン』
船橋洋一 著／中央公論社
1995年11月刊

* 船橋洋一氏は朝日新聞社に勤務される。
発刊当時アメリカ総局長。



事・常務理事として二三年間その局にあたりました。威歴はいったん西園寺の養子となり、実家徳大寺家にもどつてからさらに生母の実家を継いで、未弘を称していました。

アドバイザリー・コミッティ名簿

名誉委員

平岩 外四

経済団体連合会名誉会長、東京電力相談役
シヤンカル・ダヤル・シャルマ

インド大統領

スハルト

インドネシア共和国大統領

Dr.マハティール・ビン・モハマッド

マレーシア国首相

アンドレアス・ファン・アフト

オランダ王国元首相

アルベルト・フジモリ F.

ペルー共和国大統領

フィデル・V・ラモス

フィリピン共和国大統領

バンハーン・シラパーサー

タイ王国前首相

村山 富市

衆議院議員(大分県出身)

アンバサダーメンバー

ホセ・ラモン・サンチス・ムニョス

駐日アルゼンチン共和国特命全権大使

アシュトン・カルバート

駐日オーストラリア特命全権大使

ウイスバー・ルイス

駐日インドネシア共和国特命全権大使

金 大智

駐日大韓民国特命全権大使

マーティン・ウィーヴァーズ

駐日ニュージーランド国特命全権大使

有富 ビクトル

駐日ペルー共和国特命全権大使

アルフォンソ T. ユーチェンコ

駐日フィリピン共和国特命全権大使

シヤワツツ・アッタユック

駐日タイ王国特命全権大使

グエン・クオク・ズン

駐日ベトナム社会主義共和国特命全権大使

代表世話人

樋口廣太郎

アサヒビール会長、経済団体連合会副会長

平松 守彦

大分県知事

大南 正瑛

立命館総長

世話人

豊田章一郎

トヨタ自動車会長、経済団体連合会会長

末松 謙一

さくら銀行相談役、経済団体連合会副会長

西島 安則

日本学術会議副会長、京都大学前総長

河原 四郎

大同生命保険会長

井上 信幸

別府市長

委員 (五〇音順)

赤澤 璋一

機械産業記念事業財団特別顧問、
国際経済交流財団特別顧問、

日本・南太平洋洋経済交流協会会長、太平洋学大会会長、
日本貿易振興会元理事長

住友商事相談役

秋山 富一

東北電力会長、東北経済連合会会長

明間 輝行

中部電力会長、中部経済連合会会長

新井 正明 住友生命保険名誉会長

荒巻 恭士 きんでん会長

安西 邦夫 東京ガス社長

安藤 百福 日清食品会長

井植 敏 三洋電機会長

五十嵐 力 栗本鐵工所会長

池坊 専永 華道家元池坊四十五世、池坊華道会理事長・総裁

磯邊 律男 博報堂会長

伊藤 助成 日本生命保険会長、経済団体連合会副会長

稲葉 興作 石川島播磨重工業会長

井上 礼之 ダイキン工業社長

今井 敬 新日本製鐵社長、経済団体連合会副会長

牛尾 治朗 ウシオ電機会長、経済同友会代表幹事

字野 收 東洋紡相談役

梅田 善司 川崎重工業相談役

枝村 純郎 住友商事顧問、大和総研顧問、
元駐インドネシア共和国特命全権大使、
元駐ロシア連邦特命全権大使

大賀 典雄 ソニー会長、日本商工会議所特別顧問

大河原良雄 元駐米大使、外務省顧問、国際協力推進協会理事長、
国際農業者交流協会会長、世界平和研究所理事長、
日米協会会長

大國 昌彦

王子製紙社長

大澤 弘之 宇宙開発事業団顧問、前科学技術会議議長、
元科学技術事務次官

大竹 美喜

アメリカンファミリー生命保険会長

大西 正文

大阪ガス会長、大阪商工会議所会頭、
アジア商工会議所連合会会長

岡崎 真雄

同和火災海上保険社長

岡部 敬一郎

コスモ石油社長

小川 進

東邦瓦斯会長

小澤 三敏

住友重機械工業社長

小野田 隆

住友海上火災保険社長

鹿取 泰衛

国際交流基金顧問、国際文化交流推進協会理事長、
国際開発高等教育機構理事長、日本外交協会理事長、
元中華人民共和国特命全権大使、
元駐ソヴェト連邦特命全権大使

河合 良一

コマツ相談役

川上 哲郎

住友電気工業会長

北岡 隆

昭和電工相談役
三菱電機社長、経済団体連合会副会長

北島 義俊 大日本印刷社長
 木田 宏 新国立劇場運営財団理事長、元文部事務次官
 金馬 昭郎 京阪電気鉄道社長
 久米 豊 日産自動車相談役
 後藤 康男 安田火災海上保険会長
 小長 啓一 アラビア石油社長、元通産事務次官、
 日本経営者団体連盟副会長
 小林 公平 阪急電鉄会長
 小林庄一郎 関西電力会長
 小林陽太郎 富士ゼロックス会長、経済同友会副代表幹事
 近藤 晃 日本航空社長
 齋藤 興二 岩谷産業社長
 坂田耕四郎 三井生命保険会長
 坂本 卓 日鉱金属社長
 櫻井 孝願 第一生命保険会長
 佐藤 文夫 東芝会長
 佐野 一夫 小野薬品工業会長
 澤田 茂生 日本電信電話会長
 椎名 武雄 日本アイ・ビー・エム会長、経済同友会副代表幹事
 塩野 芳彦 塩野義製薬社長
 篠崎 昭彦 住友金属鉱山会長
 新宮 康男 住友金属工業会長、関西経済連合会会長
 杉浦 喬也 全日本空輸代表取締役
 鈴木 正 第一製薬社長
 鈴木 敏文 イトーヨーカ堂社長、経済団体連合会副会長
 鈴木 信夫 丸善社長
 鈴木 治雄 昭和電工名譽会長
 関本 忠弘 日本電気会長
 千 宗室 茶道裏千家家元
 高橋 靖 大日精化工業社長
 高原慶一朗 ユニ・チャーム社長
 武内 伸允 東洋信託銀行社長
 田嶋 英雄 ミノルタ会長
 田代 和 近畿日本鉄道社長
 巽 外夫 住友銀行会長
 館 豊夫 三菱自動車工業相談役
 立元 正一 住友大阪セメント社長
 田中 義巳 ニチメン会長
 垂水 公正 アシア開発銀行前総裁、東京海上火災保険顧問
 千畑 一郎 田辺製薬社長
 轉法輪 奏 大阪商船三井船舶会長、経済同友会副代表幹事

豊島 格 日本貿易振興会理事長
 中里 良彦 富士電機社長
 長島 一成 ジャパンエナジー会長
 西尾 哲 日商岩井相談役
 萩原 晴二 横浜ゴム社長
 羽倉 信也 第一勧業銀行相談役
 早崎 博 住友信託銀行会長
 深田 祐介 作家
 福原 義春 資生堂社長
 藤澤友吉郎 藤沢薬品工業会長
 藤村 宏幸 荏原会長
 藤村 正哉 三菱マテリアル会長
 藤原 富男 大日本製薬会長
 古河潤之助 古河電気工業社長
 古川 昌彦 三菱化学会長、経済団体連合会副会長
 前田勝之助 東レ社長、経済団体連合会副会長
 牧 冬彦 神戸製鋼所相談役、神戸商工会議所会頭
 斑目 力曠 ネミック・ラムダ会長
 松下 正治 松下電器産業会長
 松橋 功 JTB会長
 三重野 康 日本銀行名譽顧問
 三田 勝茂 日立製作所会長
 御手洗富士夫 キヤノン社長
 水口 弘一 野村総合研究所相談役 理事会議長
 三野 重和 クボタ会長、大阪工業会会長
 宮内 義彦 オリックス社長、経済同友会副代表幹事
 宮村 眞平 三井金属鉱業社長
 三好 俊夫 松下電工会長、関西経営者協会会長、
 日本経営者団体連盟副会長
 茂木友三郎 キッコーマン社長、経済同友会副代表幹事
 森 英雄 住友化学工業会長
 諸橋 晋六 三菱商事会長
 八尋 俊邦 三井物産相談役
 山口 信夫 旭化成工業会長
 山田 菊男 三菱石油相談役
 山本 卓真 富士通会長
 湯淺 暉久 ユアサコーポレーション社長
 米倉 功 伊藤忠商事相談役
 若原 泰之 朝日生命保険会長
 渡辺 滉 三和銀行会長
 和田 一夫 世界市民企業グループ八佰伴代表

【京都・滋賀経済界】

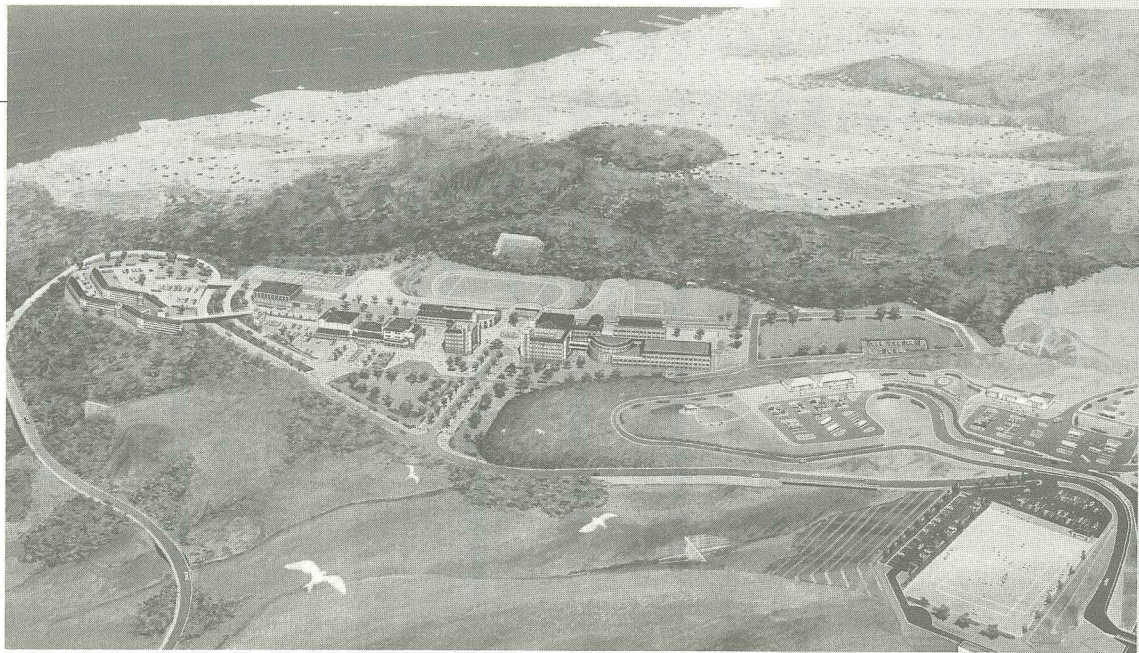
秋元 満 京都銀行頭取
 石田 明 大日本スクリーン製造社長
 稲盛 和夫 京セラ会長、京都商工会議所会頭
 坂部三太郎 ダイニツク会長、京都工業会会長
 佐藤研一郎 ローム社長
 寿栄松憲昭 日本電池相談役
 鈴木 正三 日本写真印刷会長
 高橋宗治郎 滋賀銀行頭取
 立石 義雄 オムロン社長
 塚本 幸一 ワコール会長、京都商工会議所名譽会頭
 西八條 實 島津製作所会長
 堀場 雅夫 堀場製作所会長
 道端 進 京都中央信用金庫理事長、京都経済同友会代表幹事
 村田 純一 村田機械社長
 村田 泰隆 村田製作所社長

【九州経済界】

安藤 昭三 大分銀行頭取、大分商工会議所会頭
 石井 幸孝 九州旅客鉄道社長
 江副 茂 東陶機器社長
 大野 茂 九州電力会長、九州・山口経済連合会会長
 小野 浩 大分交通社長、大分朝日放送社長、
 大分県経営者協会会長
 菊池 功 安川電機会長
 上妻 亨 トキハ相談役
 後藤 達太 西日本銀行会長
 白石 司 九電工社長
 佃 亮二 福岡銀行頭取
 林 武志 朝日ソーラー社長
 福島親比古 大分瓦斯社長
 吉村 益次 ダイコー会長
 和智 午郎 西部ガス会長

アドバイザー・コミッティ
 名譽委員……………九名
 アンバサダーメンバー……………九名
 委員……………一五〇名
 合計……………一六八名

（一九九七年六月一四日現在）
 *敬称は省略させていただきます。



開学を楽しみにしています

大分県立羽室台高等学校 2年 清水康弘 さん

立命館アジア太平洋大学には大変興味があります。特にアジアからの留学生と一緒に学べることに大きな魅力を感じます。別府にいながらにして海外留学が体験できるような、楽しい大学生活が経験できそうですね。

別府はとても好きな街ですが、若い人達に

とっては大学と就職先が少ないことがちょっと残念です。新しい大学ができれば、別府の高校生にも地元を離れずに進学できる選択肢が広がります。

どんな大学ができるのか、今からとても楽しみにしています。

大学ができると街がにぎやかに

別府市竹の内 主婦 白井三恵子 さん

私が住んでいた宮崎県の町でも以前、私立の大学が誘致されました。大学が来るまでは小さな町で、若い人もそへ出ていましたが、大学ができた後は町全体が活気づきました。地域の祭りにも若い人がたくさん繰り出していましたし、大学祭などでイベントも増えました。私は学生の下宿や食堂などを営んでい

ましたが、商店街もすいぶん潤ったようです。

別府の街も立命館アジア太平洋大学が来ると、にぎやかになると思います。別府は観光地ですから、学生の親御さんや親戚、友達への宣伝にもなると思い、その面からも期待しています。

別府の街にふさわしい国際大学

別府市北中 主婦 福村博江 さん

立命館アジア太平洋大学のような国際大学は公害や騒音が心配な工場と違い、国際観光都市を目指している別府にふさわしい施設だと思えます。もともと、外国からのお客さんも多い上に、海外から多くの留学生が集まれば世界からも注目を集めると思えます。

大学ができれば、アジアの国にとって日本

を代表する都市は東京や大阪より「大分」や「別府」になるのではないかと、内心期待しています。

子を持つ親としても、別府に大学が増えることは嬉しいことです。若い人が増えて、活気に満ちあふれた街になればいいですね。

高等学校進路指導部の教員の声

平成8年に実施したアンケート調査の結果から(抜粋)

◆ 国際的な活躍を期する場合、当大学を勧めてみたい。(兵庫県・私立高)

◆ 同じキャンパスで50カ国以上の学生と交流できるのはすばらしいことである。(大分県・県立高)

◆ アジアの学術・研究のセンターになれる大学です。(愛知県・県立高)

◆ いままで大学と違った視点からの新しい大学。(大分県・県立高)

◆ これからは国際化の時代。国際交流のはかれる大学であれば大いに生徒に勧めたい。(愛媛県・県立高)

◆ これからはアジアの時代と思います。それを見越し、かつアジアを基点とする仕事に就いていくことを夢としてほしいので勧める。(香川県・県立高)

◆ 現代社会に生きる人間の基本素養(コミュニケーション能力、コンピュータリテラシー)と、現代的視点を学べる大学として歓迎。(福岡県・県立高)

◆ 今日我が国の国際化は欧米語圏に偏っている。アジアについて理解を深め、正しい国際化を進めるためにも勧めたい。(岡山県・県立高)

◆ 真に国際的視野に立った考え方を身につけさせたい。また近くて遠いアジアに、もっと目を向けさせたいと考え推奨する。(静岡県・私立高)

【新大学建設予定地・別府市から】 立命館アジア太平洋大学に 寄せる期待の声

官民あげ市民レベルでも強力な受け入れ態勢を



別府商工会議所会頭
立命館アジア太平洋大学設置期成同盟会
会長 友永文月 さん

高等教育、行政、市民の3つのレベルが力を合わせて大学をつくる。そこへアジアから多数の留学生を迎え入れる。これは我が国ではじめての計画であり、戦後例を見ない壮大な構想です。

一昨年9月の「立命館アジア太平洋大学」誘致決定のニュースは、経済界はもちろん、市民・県民にとっても大変嬉しい知らせでした。新大学の設置は21世紀に向けて別府市が大きく飛躍する千載一遇のチャンスであり、官民あげた強力な受け入れ態勢を確立することが大切だと思います。開学の暁には、文化・学術・研究等の拠点都市として新たな発展に寄与するだけでなく、若者の定住、産業・観光の振興、人材育成等、地域の活性化をはじめ、アジア太平洋諸国との交流など国際化の面でも果たす意義は大きなものがあると期待しています。

次代を担う子供たちのために

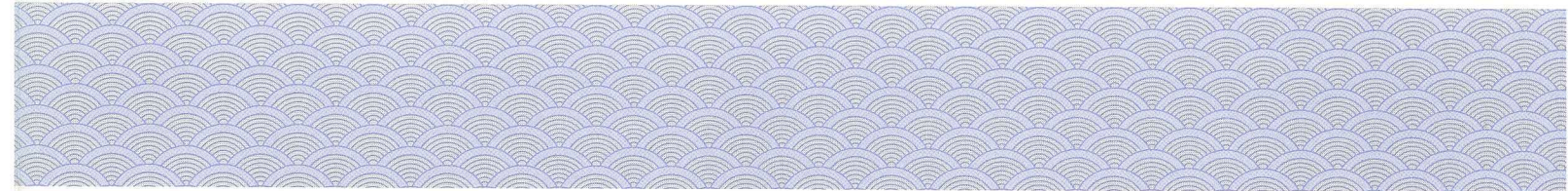


(社) 別府青年会議所
理事長 梅津 亮 さん

青年会議所は一昨年の誘致発表以来、大学関係者との懇談や施設の視察などを行っています。立命館大学京都キャンパスも見学しましたが、開放的で活気にあふれた空間でした。このような元気のある施設が別府に来ることは、街の発展に良い影響を与えてくれると思います。また、毎年卒業する学生が母国や故郷に帰って別府の話をしてくれると、大きな宣伝効果も期待できます。

21世紀は「アジアの時代」といわれています。国際化をめざす別府にとって、世界を担う人材が別府で育つことはすばらしいことです。別府の子供たちにとっても、進学する上での大きな目標になります。

次の世代の人達のためにも是非、新大学の誘致を実現させたいと待ち望んでいます。



RITS

発行：学校法人立命館
〒603-77 京都市北区等持院北町56-1
TEL.075-465-8366 (理事長室)